

平成30年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

福岡県立八幡工業高等学校長 印



学校運営計画 (4月)			評価 (3月)		
学校運営方針	学校のブランド化を目指し、個に応じた特色ある教育活動を行い生徒の可能性を引き出し、きめ細やかで面倒見のよい教科指導、生徒指導、キャリア教育を行う。また、進路実現につながる学力はもとより、コミュニケーション能力や課題解決能力を身につけ、さらには一生の仲間づくりと社会性を身につける教育を行う。教育の指導指針として鍛ほめ福岡メソッドに基づき、鍛えて (いろいろ試して解決したいと思う心やできないことをできるようになりたと思う心) 、ほめて (取組の結果や取り組んできた過程) 、生徒の可能性 (学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心等) を伸ばし、卒業まで丁寧に指導を行い、地域、社会に貢献できる人材を育てる。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
学校組織の改変により連携の強化と組織的運営に取り組んだ。学校教育力のステップアップと生徒の基礎学力向上を図った。ものづくりプロジェクト、奉仕活動やPTA活動を通し地域社会との連携を図ることができた。本年度は、伝統校に見合う学校教育力の向上と学校のブランド化を具体的に図って行く。	校訓の意を汲める生徒の育成を目標として母校、地域に愛着を持ち人工愛を育む。規範意識と自律心、思いやりの心を持つ生徒を育成し、生徒個々の自立と協働する人間関係を育み、いじめの撲滅を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や実習・学校行事・部活動・奉仕活動を通し自助と協働を育成し公の精神の育成。 ・体験的学習を通して自律心と社会性、道徳心を育成。 ・学校生活全体を通した規律指導 (道徳教育) を徹底し規範 (道徳) 意識を育む。 	A		
	生徒一人一人の学ぶ意欲の向上を目指し、自己存在感を与え確かな学力の育成を図り、基礎学力の向上とわかる授業づくりのためのICTの活用と職員研修の充実を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな指導による成績不振者の削減や中途退学者の防止。 ・学力に応じた教材の提供とICTを活用し授業改善を行い、わかる授業、自ら学ぶ授業の実践。 ・始業前、終業時の礼節及び授業規律 (道徳教育) の確立し教育環境を整備する。 			
	地域を担う産業人の育成を目標として、生徒へ自己決定の場を与えることにより、自らが常に能力向上を目指し努力する生徒を育成し地域産業に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> ・産学連携等の教育活動を通して愛校心と地域の誇りを涵養。インターンシップによる地域産業を知ること、社会性の向上と資格取得のさらなる推進。希望進路実現に向けたガイダンス機能の充実。 			
	ものづくりプロジェクトや奉仕活動により地域との連携を密にし、奉仕の心を育成し地域との信頼関係を強化する。本校の教育活動や教育状況の迅速かつ積極的な公表や情報発信を行い学校教育力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のリアルタイムな情報公開と学校HPの更新を行いPRの強化を行う。 ・中学校訪問や出前授業、ものづくりプロジェクトや奉仕活動等を活用し地域連携の強化を行う。 			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)		
教	生徒が主体的に授業へ取り組む姿勢づくり	教室又は実習室の整理整頓を行うなど授業環境整備に取り組み、生徒の授業に取り組む姿勢の確立や授業への集中及び積極的な参加を促す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業環境整備がまだ十分に徹底しておらず、生徒が落ち着いて授業に臨んでいない面があるため、全教師で取り組む必要がある。 ・成績不振者への取り組みは計画的に教務課主導で進めることができた。なお一層の取り組みを推進し、基礎学力の向上に努める。
	わかる授業の展開	各教科と連携し、基礎学力の定着を図る。また、欠課時数の多い生徒や成績不振生徒に対してのアプローチを積極的に行う。	B		
	授業時数の確保	曜日や科目内、クラス間の学校行事などによる時数のアンバランスを把握し、平均化する。	A		
務	学校安全と防災教育の充実	防災教育の徹底を図るため、避難訓練の実施・安全教育を年1回以上実施する。また、避難経路の教室掲示を促す。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の方法を見直し、充実した内容としていく。特に、生徒に緊張感を持たせることが課題である。 ・行事ごとにアンケートを実施したが、アンケートの提出が少ない。次年度には回収率を向上させ、行事の見直しと改善に生かす。 ・他部署との連携、連絡・調整を進め、円滑に業務ができるように努める。
	学校行事の円滑な計画・実施	他分掌と連携をとりながら、組織的に準備にあたり行事を行っていく。また、アンケートを実施し次年度に生かす取り組みを行う。	A		
	資料の管理・円滑な学校運営の補佐	関連文書の管理、他分掌との連携を徹底する。	B		
	広報活動の充実	学校組織に関わる資料準備を計画的に進め、作成を早期に完了する。	A		
部	教職員の研修の計画・実践・記録を充実	課題別研修会を年間3回以上実施し、本校の活性化につなげる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修については年間3回に限定することなく、随時、必要に応じた研修の機会を提供できるようにしたい。 ・基本研修の見直しが行われるため、それに伴って、授業参観や研究授業後の合評会等、これまでの研修会を見直し、よりよい研修の場となるようにしたい。 ・年度末に次年度の学年同推を選出していただき、時間割を空けて授業時間中に、同推委員会を実施できるようにしたい。
		公開授業・研究授業週間を年間3回設定し、教科指導・生徒指導力向上を図る機会を設ける。	A		
		研究授業後の合評会に積極的な参加や授業見学シートの活用を促す。	B		
		研究紀要の充実を目指し、次年度以降の教育活動に活用できるよう工夫と改善を行う。(印刷は20部とし、PDF化する)	A		
	人権教育の推進と充実	同推委員会の機能を活性化し、様々な研修を進め、他の分掌との連携を強化・推進し人権教育の充実を図る。	A		

生徒	生徒指導課	基本的生活習慣の確立	生徒指導組織図を基に、各部との連携を図りながら、問題行動の未然防止に努め、特別指導者数の前年比20%減を目指し指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や学年集会で注意喚起といった積極的な生徒指導により、特別指導や問題行動の数が大幅に減少した。今後も各集会等で積極的な指導を行っていく。 ・遅刻者は減少傾向にあるため、継続して校門指導において挨拶と服装指導を確実に取り組んでいく。 ・再検査の実施を2日後に固定したため、最終検査や学年指導になる生徒が減少した。今後も、短期間で検査を終了するように指導していく。さらに検査日の指導に留まることなく、全職員の日頃の指導を充実させていく。 ・登下校時において公共交通機関の乗車マナーについて数件苦情があったため、交通安全指導に加え、マナーについても指導を充実させていく。 ・いじめ問題未然防止の取り組みとして、引き続き家庭用チェックリスト等を効果的に活用する。 	
			組織的且つ継続的に校門指導及び登下校指導を行うとともに学年担当を中心に月1回の服装頭髪検査を実施する。	A			
		安全意識の向上	登下校及び教育活動全般において、事故件数0を目指し、関係諸機関と連携し安全教育を徹底する。	B			
		生徒の自発的・自治的活動の充実	リーダー育成の観点から、学校行事等を通じて生徒主体となるよう企画し、生徒の自己存在感を育成する。	A			
		いじめ防止に対する取り組み	日常の観察の充実といじめのアンケート等の実施、関係機関との連携により、いじめの未然防止及び早期発見に努める。	A			
指導	保健環境課	心身の健康管理と安全管理の意識を高める	保健委員会活動を活発にし、健康診断業務を円滑に実施する。また、講演などを通して生徒の健康管理意識の向上を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会活動の一つである健康診断業務では、生徒が自ら考え活動することができるようになり、円滑に実施することができた。次年度は更に委員会活動を活性化していきたい。 ・校外清掃活動は計画通り実施できたが、美化コンクールが実施できなかった。次年度に向けては、各清掃場所での美化用具の充実と年間計画で美化コンクールの日程を決定し、計画的に準備を進めたい。 	
			授業・部活動・登下校の事故ゼロを目指し指導する。衛生委員会と合同で安全点検を定期的実施する。	A			
		校内・校外の環境整備に努め、美化意識の向上を図る	年に2回、美化コンクールと美化点検を実施し、生徒の美化意識の向上及び掃除用具の管理を行う。	B			
			年に2回、全校生徒による校外清掃活動を実施することで、地域への貢献や、道徳精神の育成を図る。	A			
部	生徒会	生徒会活動の充実	月に一回、生徒会役員会を実施し、話し合いの中でコミュニケーション能力の育成を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事において生徒会役員全員に役割と責任を持たせ、組織的な運営を行うことができた。今後は、生徒が役割の割り振りを各々が自主的にできるようにする。 ・生徒会役員会及び各委員会の定例開催ができていなかったため、次年度以降定例開催できるよう担当教員との連携を図っていく。 ・生徒会役員全員に自覚と責任を持たせることができたが、主体性に欠ける面があったため、改善するよう指導を充実させる。 	
			各行事において、生徒会役員全員に役割を与え、生徒会で組織的に学校行事の運営を行う。	A			
		委員会活動の活性化	各委員会を定例開催し、各委員長・副委員長を中心に話し合いを行わせ、各委員に自覚と責任を持たせる。	B			
			他分掌と連携を図りながら、委員会活動の充実を図る。	B			
進路	進路指導課	各学年でのキャリア教育の充実と生徒・保護者への進路情報の積極的提供	各学年での進路研修会を通してキャリア教育を計画的に実施し、生徒・保護者に対する面談等を積極的に行うことにより、進路意識の向上を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路内定率は100%ではあるが、これまで以上に生徒の希望に添う進路へ導くようキャリア教育を計画的に進める。 ・進路ニュースなどによるインフォメーションは実施できているが、今後は個に応じた対応を充実させる。 ・インターンシップへの依頼企業は、生徒の希望と学校の実情に応じた企業となるよう更に見直し、検討を進める。 ・応募前職場見学への積極的な参加によってミスマッチが減少している、企業研究を重ねて更にミスマッチが減少するように取り組む。 ・社会人としてのマナー指導については、SNSの利用など実践できていない面があるため、今後も組織的に継続して指導、啓発を行う。 ・補習及び課外については、生徒の希望に応じた指導体制の充実に向けて、更にその体制を改善していく。 ・教職員の連携にスクールソーシャルワーカーや訪問指導員による相談活動を積極的に結び付け、 	
			生徒・保護者に対して本校の就職・進学状況や求人状況を、進路ニュースの発行やホームページへの掲載により積極的に情報提供することで、進路実現の一助とする。	B			
			インターンシップを通して、仕事の充実感や社会のルールを学ぶばせ、産業界との連携を図る。また、生徒の希望する企業や過去3年間本校への求人が途絶えている企業に対して積極的に求人開拓を行う。	A			
		第3学年における希望進路の実現と卒業時までのキャリア教育（実社会でのマナー含む）の徹底	生徒の適性を考慮した就職指導を行い、就職一次内定率90%以上を目標とし、12月末までの就職内定100%を実現する。また、応募前職場見学への生徒の参加を積極的に促し、企業研究を深めさせることで企業と生徒とのミスマッチを防ぐ。	A			
			社会人としてのマナーや自覚を促す指導を充実させ、入社後に円滑に適應できるよう指導する。また、SNSの使用マナー教育を行い、SNS使用の影響等を生徒に深く考えさせ、実践行動できるようにする。	A			
			公務員希望者への課外授業を充実させることで、合格率を上げる。大学進学希望者に対して個に応じた受験対策の充実と進学後に役立つ学力補充のための指導を行う。	B			
	修学支援の充実	学期に1回の生徒情報交換会と日常的な情報交換を推進し、中途退学者0名を目指した個に応じた指導を組織的に行う。	B	B			
指導	図書情報課	読書習慣の定着及び図書館利用・貸出数の向上	学期に1回の「朝の10分間読書」の実施、月1回の「図書館だより」の発刊を通して、生徒の読書への関心を高め、読書習慣の定着を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書の日のLHR設定については、新入生指導や年度初めの行事などがあり、4月23日に実施できなかった。今後は他部署との連携を進め、計画的に実施する。 ・本年度変更されたサーバシステムの運用等が円滑に進むよう、関係部署や職員と連携を取り、必要に応じて研修を行うなど積極的に取り組む。 ・学校ホームページの更新を随時行うため、情報収集の方法や体制作りを再考する必要がある。 	
			生徒一人あたりの年間貸出数5冊を目指すため、図書委員会を更に活性化させ充実した図書館運営を行う。	A			
		ICTを活用した授業の推進及び視聴覚教育の推進	授業等におけるICT活用の情報を提供し、電子黒板等の研修や教材研究の事例作成等を充実させ教員に還元する。また、その他の視聴覚教材も充実させ、有効活用を推進する。	B			
		校内ネットワーク・情報機器の管理保守	校務サーバ・校務PCや生徒用PCを適切に管理し快適な利用環境を確保するとともに、トラブル発生時には迅速な対応を行う。	A			
	学校ホームページの効果的運用	頻繁に更新を行う学校PRの窓口とするため、他の分掌との情報交換を密にする。また、ホームページの体裁も再考する。	B				
部	広報課	地域貢献事業（まちづくり活性化およびボランティア事業）	1. 地域貢献事業（まちづくり活性化及びボランティア事業） 11月に黒崎宿場まつりへの貢献活動、12月に黒崎クリスマスイルミネーションの製作を行う。 また、H28年度新設の地域の高齢者へのサポート体制の確立させる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、例年の取り組みに加え新しく地域のイベントに参加要請も多数あり、積極的に参加することにより、更にイメージアップとPR活動の充実ができた。また、開放講座も知名度が上がり、特に中学生の参加が増えたため、引き続きそれぞれの内容を充実させ本校入学希望者へ繋げたい。 ・今年度の最大の目標として、イメージキャラクターの着ぐるみ製作に取り組み、生徒と教師の協働により見事2体完成した。今後は、様々な行事やイベントで有効に活用したい。 	
			ものづくり講座（一般向け／小学生向け学校開放講座）	本校の施設設備を使用し、本校生徒による指導で日常の教育活動によって培われた知識・技術をもとに、地域の方々に工業高校を体験していただく。八幡西区役所と連携して「チャレンジプロジェクト」チームを編成し、生徒の指導による休日開放講座を年間を通じて実施する。			A
			イメージキャラクター製作（PR用）	本校名通称「ハチコウ」を地域に定着させるため様々なイベントを検討する。着ぐるみの製作を行う。			A

第 1 学 年	基本的な生活習慣の確立	欠席者の延べ人数を1クラスにつき、毎月5人以内を目指し指導する。	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席する生徒は一部の生徒を除いて減少している。しかし、休みがちな生徒もいるため、引き続き生徒個々への対応を関係部署と連携しながら、担任を中心に改善するよう取り組む。 ・移動教室や集合時間に遅れてくる生徒がいるため、5分前行動の指導を徹底する。 ・大きな問題行動は無かったものの生徒間のトラブルが見受けられた。今後はコース選択等もあるため、よりきめ細やかな指導を行い、良好な人間関係ができるようにする。 ・学校行事への参加は積極的に取り組む姿が見られたが、部活動への加入率は、昨年度に比べ減っているため、部活動の継続や加入の促進を図りたい。
		相手の立場や心境を考えられる思い遣りを涵養し、校則を守らせる。	B			
		教室の環境整備と提出物の期限厳守の指導をする。	B			
	授業規律と基礎学力の向上	毎時間の授業で礼節の指導を行う。	A	A		
		各学期の欠点保持者5名以下を目指し指導する。	B			
	学校行事・部活動の活性化	体育大会等の学校行事での役割と目標を持たせる。部活動への積極的な加入を促す指導を行う。	A	A		
第 2 学 年	基本的な生活習慣の確立及び思い遣りの心の育成	1クラスにつき毎月欠席者の延べ人数3人以内、遅刻者の延べ人数5人以内を目指し指導する。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に遅刻・欠席は減少傾向にあるが、特定の生徒の遅刻・欠席が目立つようになってきている。家庭との連絡を密にし、遅刻・欠席の多い生徒に対して指導を徹底していききたい。 ・服装頭髪検査に関しては、1次検査で不合格となる生徒が減少している。しかし、目標の0人は達成できていないため、1次検査で全員合格できるよう日頃の指導を継続したい。 ・学習面に関しては、欠点保持者が1年次に比べて増加傾向にあるため、日頃の授業や定期考査前の指導を徹底して行う。
		服装頭髪検査で1次検査不合格者0名を目指し指導する。	B			
	基礎学力の向上と資格取得の推進	各学期末欠点保持者5名以下を目指し指導する。	B	A		
		資格取得を奨励し、合格率平均60%以上を目指し指導する。	A			
学校行事への積極的参加	修学旅行での実行委員会をはじめとし、諸行事での役割と目標を明確にし、事前・事後の指導を徹底する。	A	A			
第 3 学 年	社会的規範の体得	基本的な生活習慣を確立させ、出席皆勤者100名以上を目指し指導する。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定前と決定後の学校生活の変化については、出席状況は概ね良好であった。しかし、学習については、授業等に集中できていない面があり、取り組む姿勢に差が見られ残念であった。次年度以降は、進路決定前後での生徒の変化を想定した指導方法を工夫したい。 ・希望進路の実現では、就職希望者は早期に決まり、進学についても概ね良い結果を得ることができた。今後も進路指導部等との連携を密にすることで、組織的な進路指導の充実を図りたい。 ・最上級生としての自覚については、生徒会役員と各科のリーダーが連携しながら、多くの学校行事において、それぞれがリーダーシップを発揮し、下級生の見本となる行動をとることができた。今後も継続して、このような取り組みをしていきたい。
		服装頭髪検査で1次検査不合格者0名を目指し指導する。	B			
		交通安全・交通マナーを中心に校外で安全教育の徹底を図る。	A			
	希望進路の実現	希望進路の早期達成、就職内定率100%を目指し指導する。	A	A		
		就職・進学試験に向けて対策を行い、意識の向上を図る。	A			
		進路指導部や各科・各教科と連絡を密にとり、細やかな進路指導を行う。	A			
最上級生として自覚と責任ある行動	生徒会役員とブロックリーダーが連携し、まとまりのある学年集団を育てる。	A	A			
機 械 科 系	基本的な生活習慣の確立	時間厳守、人の話を聞く態度等、けじめを付けて行動させる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣について継続的に指導を続け、けじめをつけることが出来る生徒を育成する。 ・実習場の整理整頓を心掛けてはいるが、行事後の片付けが間に合っていない。次年度も継続して環境整備に力を入れる。 ・実習中の大きなケガや事故はなく、安全第一で実習を行うことができた。今後も継続して安全指導を行う。 ・計算技術検定3級、情報技術検定3級の合格率は、目標を達成することができたが、特定の教員の負担が大きかったため、指導体制の構築に科として取り組みたい。 ・基礎製図検定の合格率は目標を大きく下回ったが、次年度も本年度と同様に科職員全員で頑張りたい。
		マナーやルールを守ることが出来る人材の育成を目指し指導する。	B			
		使用した工作機械の整備、工具の整理整頓、ごみの分別処理など、5Sを考えた行動が出来る生徒を育成する。	B			
	安全教育の徹底	安全に対する心構えや、重要性を認識させる。	A	B		
		始業点検を行い、安全に作業が出来る準備を徹底させる。	B			
		実習工場を整理(修理)し、安全・有効に使えるようにする。服装や保護具の着用を徹底し、実習での事故を無くす。	B			
	ものづくりを通して、工業に興味関心を持たせる。	計算技術検定3級、情報技術検定3級の合格率90%以上を目指し指導する。	A	A		
		基礎製図検定の合格率50%以上を目指し指導する。	B			
		実習、課題研究、講座を通して、ものづくりの楽しさを教える。	A			

機械系	基本的な生活習慣の確立と社会人としてのマナー及び安全行動できる生徒を育成する。	個に応じた指導を充実させ、前年度より遅刻・欠席・早退数の減少を目指し指導する。また、日常的に挨拶指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2組全体としての出席状況は、生徒の実態に則した指導の効果が表れ良好であった。しかし、3年生については、就職内定後の出席状況がそれまでに比べ、欠席が増えているため、指導方法の改善工夫を行いたい。 ・けがや事故については、実習前及び実習中の安全指導を徹底しているため0件であった。しかし、若干実習服の身だしなみができていない生徒もいるため、自己指導力を高める指導を行い、安心安全な実習が行える環境を整えたい。 ・資格指導については、目標とする合格率に達していない資格もあるが、連携した指導の結果、合格率を向上させることができた。しかし、ジュニアマイスターの取得率が例年と比べ低下したため、1年次より系統的な指導となるよう改善したい。 ・競技大会等については、溶接競技大会団体3位、マイコンカー九州大会出場の成績を残すことができた。それぞれの目標を達成するために、指導力の向上と科の連携を高めていきたい。
		安全指導を徹底することで、実習や各行事での事故および災害を0件にする。	A		
	進路実現につながる資格取得の指導を充実させる。	計算技術検定3級・情報技術検定3級の合格率90%を目指し指導する。	B	B	
		乙種4類危険物取扱者の合格率60%を目指す。また、2組全体での取得率60%を目指し指導する。	B		
		第2種電気工事士の合格率80%を目指し指導する。	B		
		2級ボイラー技士の合格率75%を目指し指導する。	A		
		卒業時までにはジュニアマイスターシルバー40%、ゴールド15%のそれぞれの認定を目指し指導する。	B		
	各競技大会に積極的に参加することで、常に知識と技術力の向上を目指した生徒の育成をする	ものづくりコンテスト（旋盤・電気工事・木材加工）、溶接技能競技大会に参加し、内2つ以上の入賞ができるように指導環境及び内容の充実を図る	B	B	
ロボット競技大会、マイコンカーラリーに参加し、決勝進出または入賞できるように指導環境及び内容の充実を図る		B			
機械系	基本的な生活習慣の確立を目指す	時間を守り、今すべきことは何か考えて行動できる生徒を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・5Sの徹底、基本的な生活習慣の確立に力を入れて完全徹底を目指し指導してきたが、クラス間格差が大きく指導を徹底することができなかった。次年度以降も引き続き完全徹底を目指して指導していきたい。 ・就職指導については、3年の担任を中心に職員との連携を深め、希望進路の実現を早期に達成することができた。次年度も本年度同様に指導していきたい。 ・安全教育については、実習の開始前に毎回注意を行うなど指導を行った結果、大きなけがや事故もなく目標を達成できた。次年度以降も継続して指導していきたい。
		5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底を目指し指導する。	B		
	希望進路の実現を目指す	進路指導部との連携により、就職・進学を希望する生徒の進路内定率100%を早期に実現させる。	A	A	
		担任・教科担任間の連携を密にして、生徒のスキル・適性を把握しその能力にふさわしい就職指導を行う。	A		
	安全教育を徹底する	実習工場の整理整頓を徹底し、実習マナーの向上に努め、安全への理解を深める。	A	A	
		安全な作業の重要性を実習等を通して徹底する。	A		
電気系	資格取得推進	第2種電気工事士の合格率50%以上を目指し指導する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・電気工事士については、受験の機会が年間2回に増えたため生徒の能力に応じて受験時期を選択させることができた。1年生の合格者もあり、次年度からは入学時からの受験指導も考慮する。 ・工事担任者取得への意欲喚起について、更に指導方法の工夫改善を行う。 ・早期より面接指導を開始して指導を充実させることで、就職希望者の内定が年内に決まり十分な成果を上げることができた。次年度も更に指導を充実させたい。
		計算技術検定3級、90%、情報技術検定3級、70%以上の合格率を目指し指導する。	A		
		電気主任技術者、第1種電気工事士、工事担任者取得への意欲を喚起する。	A		
	希望進路の全員実現を目指す。	進路指導部と協力して、進路研修を3回以上行う。	A	A	
		進路相談を含めた面談及び、面接練習を1人10回以上実施する。	A		
	広報活動を充実する。	出前授業等を5校以上に行い本校電気科への興味関心を高める。	A	A	
土木系	基本的な生活習慣の確立	生徒に関する情報交換を学級担任と密に行うことで、個に応じたサポート体制を確立し、各クラスで出席皆勤者20名以上を目指し指導する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の情報交換を密にし、学校生活に不安を感じている生徒がいれば、科職員全員で、それを取り除くため、積極的に生徒とかわりきめ細やかな指導を行う。 ・現場見学、社会人講師による実習指導、インターシップ等を通して、土木に関する興味・関心を喚起させ、今まで以上に、土木への進路を希望する生徒を増やす。 ・公務員（土木職）希望者には早い時期から、勉強方法も含め適切なガイダンスを行う。 ・資格試験の合格率向上を目指して、指導方法や指導形態を検討する。
		移動教室授業や学校行事等の際に、遅れることがないように時間厳守（5分前行動）を徹底させる	A		
	基礎学力の向上	希望進路実現を果たすために、学ぶことの必要性を理解させ、基礎学力の向上につながる指導を行う。	A	B	
		教科担任との連携・協力を強固にし、成績不振者数を0名にする。	B		
	資格取得率の向上	測量技術認定試験の合格率70%以上を目指し指導する。	B	B	
		2級土木施工管理技術検定の合格率30%以上を目指し指導する。	B		
		測量士補の合格率30%以上を目指し指導する。	B		